

函館市立万年橋小学校

教員数：12名 全校児童数：121名 実施学年：第4～6学年

学習習慣定着モデル

デバイス : Chromebook
OS : ChromeOS
学習eポータル : L-Gate
アプリ : ミライシード、
Google Workspace for Education

■ 取組の方法

○ 児童の発達の段階に応じた望ましい学習習慣等の定着を図る取組

(1) 児童同士が家庭学習の取組を交流できる場の設定

- ・全校児童が家庭学習の取組を交流できるポータルサイトを開設し、家庭学習の取組の成果等を紹介し合うことにより、学習意欲の喚起を図った。

(2) 第4学年における取組

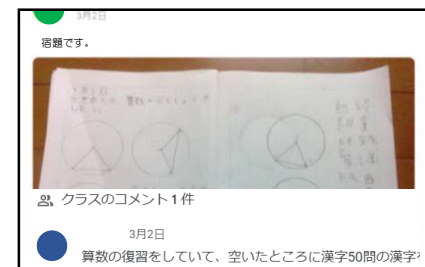
- ・AIドリル「ミライシード」を活用し、授業内容と関連付けた家庭学習に取り組ませることにより、望ましい学習習慣及び学習内容の定着を図った。

(3) 第5学年における取組

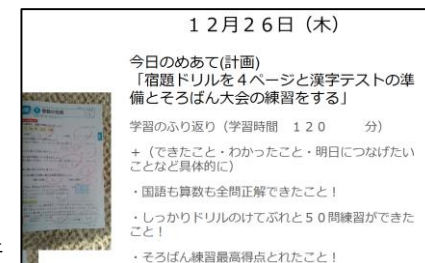
- ・「スプレッドシート」等を活用し、長期休業も含めた家庭学習の取組を端末に記録することにより、児童の自らの学習を調整する力を育んだ。

(4) 第6学年における取組

- ・AIドリル「ミライシード」を活用した家庭学習の取組や、「クラスルーム」を活用した課題の配信や、「スプレッドシート」を活用した学習状況の蓄積を行うことにより、望ましい学習習慣の定着を図った。



【家庭学習の交流ポータルサイト】



【長期休業中の家庭学習の記録】

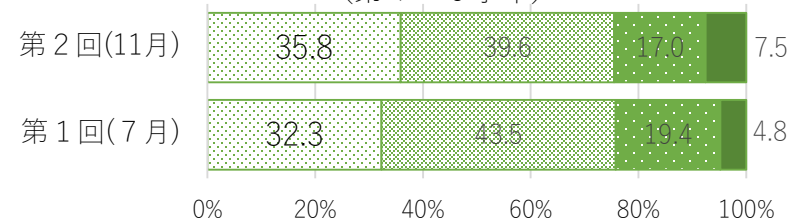
■ 児童の変容

児童の発達の段階に応じた望ましい学習習慣等の定着を図る取組を実施したことにより、「家で自分で計画を立てて勉強している」のアンケート項目において、「よくしている」と回答した児童の割合が7月の32.3%から11月の35.8%に増加した。

児童の振り返りをクラウド上に蓄積するとともに、互いの学習状況を確認できるようにしたことにより、家庭学習への意欲を高めることができた。

「家で自分で計画を立てて勉強している」

(第4～6学年)



よくできている できている あまりできていない できていない

函館市立深掘小学校

教員数：21名 全校児童数：240名 実施学年：全学年

学習習慣定着モデル

デバイス : Chromebook
OS : ChromeOS
学習eポータル : L-Gate
アプリ : スマイルネクスト、
Google Workspace for Education

■ 取組の方法

○ 学習習慣・生活習慣の定着に向けた段階的な1人1台端末の持ち帰りの計画・推進

(1) 日々の家庭学習での活用

- ・4月には第2学年から第6学年、8月には第1学年も含めて端末の持ち帰りを実施
- ・家庭学習としてAIドリルの課題を配信するとともに、取組状況などを把握し、日々の個別指導に生かす取組を実施

(2) 長期休業中の家庭学習での活用

- ・長期休業中に端末で課題を配信するとともに、個別の進捗状況や学習時間を把握し、個別指導に生かす取組を実施

(3) 自主的な学習への支援

- ・1週間毎の授業の内容を記載した時間割を「クラスルーム」に配信し、自主的な学習を促す取組を実施
- ・授業での学習内容、宿題の一覧表、おすすめの家庭学習等をWeb上で提示し、家庭学習を促進



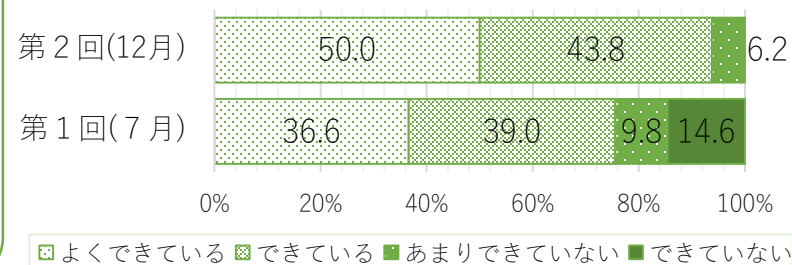
【長期休業中の観察記録ワークシート】

■ 児童の変容

特に成果の見られた第3学年では、学習習慣・生活習慣の定着に向けた取組を行ったことにより、「家でコンピュータなどのICT機器で勉強している」のアンケート項目において、肯定的に回答した児童の割合が7月の75.6%から12月の93.8%に増加した。

児童が家庭学習で端末を活用し、自分に合った課題を選択して取り組むようになり、学習習慣を定着させることができた。

「家でコンピュータなどのICT機器で勉強している」
(第3学年)



旭川市立永山西小学校

教員数：34名 全校児童数：450名 実施学年：第3～6学年

学習習慣定着モデル

デバイス：iPad
OS：iPadOS
学習eポータル：L-Gate
アプリ：Google Workspace for Education

■ 取組の方法

○ 放課後学習での「振り返り」活用

- ・月2回程度、放課後補充学習（西っ子スタディタイム 以下NST）を実施し、児童に学級担任が提示したアプリ上の課題や学習プリントに取り組みせ、その内容や振り返りを学習履歴（NSTログ）に記録させることにより、その後の学習指導に活用できるようにした。
- ・児童の取組への意欲の向上や学習方法の改善を図るため、児童の振り返りに対し、退職教員等外部人材活用事業講師が、取組を認め励ますコメントや学習方法のアドバイスをを入力した。

6年 NST ログ

フォームの説明

メールアドレス*

有効なメールアドレス

このフォームではメールアドレスが

勉強したこと*

短文回答

自己評価*

1. ○

2. ○

NSTログ

1組 名前

タイムスタンプ	勉強したこと	自己評価	ふりかえり	コメント
2024/05/14 15:4	宿題(算数 国語)自主学習(ローマ字)	○	もっと集中してやる。	限られた時間の中で3つのことに取り組めたんですね。
2024/05/21 15:2	小数のかけ算の筆算	○	小数のかけ算の筆算を覚えた	2回続けてのNSTの参加、いい調子です、
2024/07/16 15:2	算数と国語の宿題	○	次からは家庭学習もする。	次回につながる振り返りがいいですね。
2024/09/03 15:2	中国語調べ	○	もっといろんな国の言葉を知りたい	5年生のNSTの集中力、さすがです！
2024/09/17 15:4	宿題、漢字ぐんぐん	○	次の家庭学習はもっと頑張る	いつも勉強したことがきちんと書かれていていますね。
2024/09/24 15:3	理科	○	次は2ページ分家庭学習をする	理科はどんな学習内容だったのでしょうか？
				意欲的な振り返りがいいですね。NSTで勉強

担当者
級担任
も閲覧・編集が可能。
その他の教諭のコメントも

【児童が入力した学習ログや振り返りの様子】

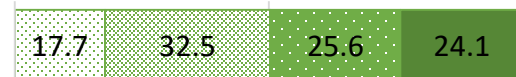
■ 児童の変容

児童アンケートにおいて、「家でコンピュータなどのICT機器で勉強している」と肯定的に回答した児童の割合が、7月の41.6%から12月の50.2%に増加するなど、授業以外における端末の効果的な活用が進んだ。

児童アンケートにおいて、「家でコンピュータなどのICT機器で勉強することは役に立つ」と肯定的に回答した児童の割合が、7月の48.3%から12月の53.1%に増加するなど、学習履歴の入力や担当者のアドバイスにより、端末活用の有効性を実感する児童が増加した。

「家でコンピュータなどのICT機器で勉強している」

第2回(12月)



第1回(7月)



0%

50%

100%

□よくできている □できている ■あまりできていない ■できていない

旭川市立北光小学校

教員数：24名 全校児童数：292名 実施学年：第3～6学年

学習習慣定着モデル

デバイス : iPad
OS : iPadOS
学習eポータル : L-Gate
アプリ : ミライシード、

Google Workspace for Education

■ 取組の方法

(1) 「家庭学習のてびき」による啓発

- 基本的な家庭学習の進め方を職員内で共有するとともに、端末の持ち帰り開始時（6月）に、児童、保護者に対して啓発を行った。
- 夏季休業開始前に、端末による「家庭学習記録表」を用いた学習ログについて、児童、保護者に活用方法を周知した。

(2) 「家庭学習記録表」による学習ログの蓄積

- 担当者が、毎月、各学級の記録状況を確認するとともに、次月に向けた指導の観点を教職員内で共有した。
- 各学年において、児童が学習ログを確認し、帰宅後の生活習慣の見直しや家庭学習の振り返りを行う機会を定期的に設定した。

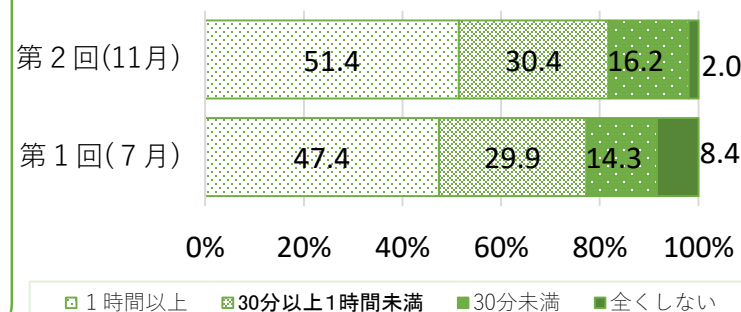
2024年 11月 6年生							2024/11/1
日	月	火	水	木	金	土	
27	28	29	30	31	1	2	週合計 各学年の週あたり目標時間
計画時間					60	60	120 490
学習予定					国語係長や豊田秀吉について	今まで習った漢字でしりとり(目標20文字)	
学習結果					45	60	105 490
学習内容					国語係長についてまとめた！	20文字クリアした	
3	4	5	6	7	8	9	
計画時間	60	60	15	60	60	60	375 490
学習予定	国語について	ESGに向けて	宿題だけ終わらせる	歴史の復習	水溶液の見分け方(合格する方法を練る)	漢字の復習	仕事について調べよう
学習結果	0	65	15	30	45	0	222 490
学習内容	予定が入ってできなかった	問題写して解いた	宿題と、比例のプリントやった	ドリルパークをたくさんやった	見分けられる方法を探った	できなかった	公務員について調べた
10	11	12	13	14	15	16	

【家庭学習記録表 第3～6学年共通様式】

■ 児童の変容

「スプレッドシート」で作成した「家庭学習記録表」の活用による日常的な学習記録と定期的な振り返りの積み重ねにより、「学校の授業時間以外に全く学習しない」と回答した児童の割合は、7月と比較して11月では6.4%減少した。また、「1時間以上学習する」と回答した児童の割合は7月の47.4%から11月の51.4%に4%増加した。第3～6学年の半数以上の児童が、自主的・自律的に一定時間以上の家庭学習に取り組むことができるようになった。

「月曜日から金曜日 1日当たりの学習時間（学校の授業時間以外）」〔第3～6学年〕



北見市立常呂小学校

教員数：12名 全校児童数：91名 実施学年：全学年

学習習慣定着モデル

デバイス : Chromebook
OS : ChromeOS
学習eポータル : L-gate
アプリ : スマイルネクスト、
Google Workspace for Education

■ 取組の方法

- (1) 週末に端末を持ち帰らせ、「スマイルネクスト」を使って授業で学習した内容の補充問題に取り組ませた。
- (2) 長期休業前に5日間程度の放課後学習サポート教室を実施した。退職教員等外部人材講師が主となり、特に第1学年に対しては、操作方法の指導も含め、家庭学習での端末の活用方法について指導した。
- (3) 全ての学年で日常的に「スマイルネクスト」を使った個別学習を実施することにより、家庭における補充問題、発展問題の取組への円滑な接続を図った。
- (4) 夏季休業明けに生活リズムチェックを1週間実施し、児童が設定した家庭学習の目標と達成状況を記録させ、家庭学習に対する児童・保護者の課題意識を高めるとともに、実態について教職員間で情報共有し、指導に生かした。
- (5) 冬季休業前に、端末を使ってできる学習活動のリンクを一覧にまとめ、授業支援アプリに配信することにより、児童が家庭学習に取り組みやすい環境を整備した。



【端末の活用方法を指導する様子】

■ 児童の変容

学校評価における児童アンケートの「学習時間は1日何分くらいですか」の項目では、複数の学年で昨年度と比較し、学習時間の増加が確認された。また、教職員アンケートでは、自分の興味・関心に合った家庭学習に取り組む児童が増えたという記述も見られた。

保護者アンケートにおいて、「学習サポートで、端末を活用した学習の振り返りを行ったことにより、苦手分野の学習への抵抗感が減った」との意見があった。

学校評価（家庭学習時間の経年推移）

令和5年度	平均学習時間(分)	令和6年度	平均学習時間(分)	増減(分)
第2学年前期	21.0	第3学年後期	27.1	6.1
第3学年前期	29.1	第4学年後期	36.4	7.3
第4学年前期	31.5	第5学年後期	31.3	-0.2
第5学年前期	35.9	第6学年後期	39.3	3.3

帯広市立緑丘小学校

教員数：34名 全校児童数：465名 実施学年：第3～6学年

学習習慣定着モデル

デバイス : Chromebook
OS : ChromeOS
学習eポータル : 実証用学習eポータル
アプリ : スマイルネクスト、ロイロノート
Google Workspace for Education

■ 取組の方法

1 取組のねらい

- ① 児童自らが家庭学習に取り組む大切さを理解する。
- ② 自己の学習を調整しながら主体的に学習に取り組む態度を育成する。

2 実施内容

- ① 第3・4学年の内容…AIドリルアプリを活用した自己調整学習の取組
- ② 第5・6学年の内容…授業支援アプリを活用した協働的な家庭学習の取組

3 実施方法

- ① 第3・4学年（AIドリルアプリの活用）
毎週水曜日と金曜日に学級担任のアドバイスを参考に、児童が自分のペースや内容、興味に応じた学習計画を立てて家庭学習に取り組むとともに、学級担任が学習進捗を把握し、取組の充実に向けたフィードバックを行う。
- ② 第5・6学年（授業支援アプリの活用）
毎週水曜日と金曜日に国語科・社会科・総合的な学習の時間を中心としたグループ学習を家庭学習の課題とし、授業支援アプリを活用して学習内容の共有や成果物の共同編集等を行い、家庭学習の充実を図る。



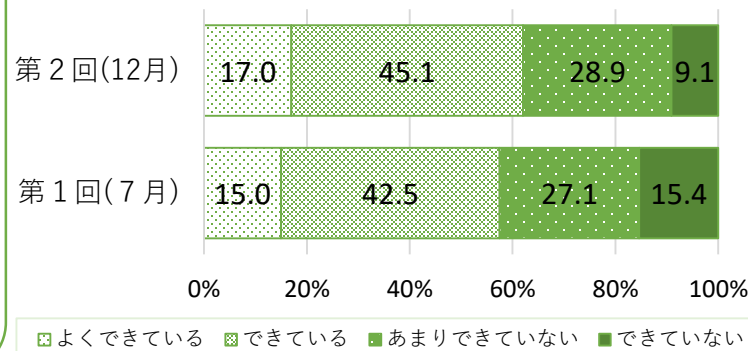
【家庭学習と関連させたグループ学習の様子】

■ 児童の変容

主体的な家庭学習の実現に向け、学級担任が宿題を与えることからファシリテートすることへ指導観の転換を図るとともに、家庭学習でICTを活用させたことにより、児童が理解や進捗に応じた学習内容を自己選択することにつながった。

12月に実施したアンケートで「計画を立てて家庭学習をすることは大切か」の設問に肯定的に回答した児童の割合が98%、「家庭でChromebookを活用して学習している」と肯定的に回答した児童の割合が7月の57.5%から62.0%に4.6ポイント増加するなど、学習習慣の定着が図られている。

「家庭でChromebookを活用して学習している」



釧路市立東雲小学校

教員数：19名 全校児童数：86名 実施学年：全学年

学習習慣定着モデル

デバイス：Chromebook
OS：ChromeOS
学習eポータル：L-Gate
アプリ：タブドリLive!、ロイロノート
Google Workspace for Education

■ 取組の方法

1 市内共通の取組

- ・学習アプリ「タブドリLive!」を活用し、デジタルドリルの正誤判定の即時フィードバックとともに、取組に応じたポイントやメダルなどを獲得するなどのゲーム性を取り入れることにより、児童の継続的な学習意欲を喚起

2 本校独自の取組

(1) 基礎学力定着及び向上に向けた漢字指導法の共通化及び児童の学習状況の共有化

- ・基礎学力検定「しのめ検定」（漢字の読み書き：国語科、基礎計算：算数科）を全校的な取組として実施
- ・自己評価を通して、児童に事後の取組の見通しをもたせるとともに、取組一覧表を活用し、教職員間で全児童の学習状況の実態を把握し、指導に活用

(2) 協働的な学びの推進

- ・対話的で深い学びの実現に向け、「ロイロノート」を活用した自他の考えを交流する時間を保障
- ・「Meet」を活用し、他校とオンラインによる自己紹介や共同学習を実施

(3) 校務DXの推進による授業改善

- ・「ドキュメント」を活用した指導案検討、「Classroom」を使った授業動画の視聴や事後研、日常の授業における「Googleサイト」や「チャット」の活用、最新の教育情報の交流、授業資料の共有化など、校務DXによる授業改善を実施

■ 児童の変容

「タブドリLive!」の活用などを行ったことにより、「家庭学習でICT機器を活用している」の項目で「よくできている」及び「できている」と回答した児童の割合が、7月の74.5%から1月の85.7%に増加するとともに、児童の学習意欲、学習の理解度の向上につながった。学習の達成度を可視化することで、今後の学習への見通しをもったり、学習意欲を高めたりする児童の姿につながった。

自他の考えを交流させたことにより、自分の考えを伝える喜びを感じたり、相手の考え聞こうとしたりする姿につながった。

「家庭学習でICT機器を活用している」

